

# ファレル『ムツリーニ』(白水社)正誤表(目についた主要なもののみ)

山形浩生

上巻

page	line	邦訳	修正	コメント
9	1	論議された人物であり、その議論の	話題になった人物であり、その話の	talked about. 議論ではない
9	4-12	ハリウッドの～含まれていない)	-	英語版にはない。伊語版から？
10	7-11	だが～からである。	-	英語版にはない。伊語版から？
10-11	最後1行	人間にとって～望むものなのである」。	-	英語版にはない。伊語版から？
13	9	敬礼をしているのを見たとき	敬礼をしているのを見るとき	一回見ただけでなく、何度も見ている。
	16-17	ムツリーニは善良な人間ではなかったが、これまで描かれてきたほど <b>邪悪な人間</b> でもなかった。そして彼は疑いなく <b>邪悪な人間</b> ではなかった。	ムツリーニは善良な人間ではなかったが、これまで描かれてきたほどひどいわけでもない。そして彼は絶対に心底邪悪な人間ではなかった。	最初の「邪悪な」はbad、後者はevil。前者は行動、後者は性根と思えばいい。同じ用語をあてて反復しているので意味不明に。
27	1-2	息子が <b>聾啞</b> ではないかと	息子が啞ではないかと	聾啞は、耳が聞こえないことまで含む。
27	9-10	革のベルトが影響力を失うと、社会主義がそれに取って代わった。	皮のベルトがだめでも、社会主義は成功したのだった。	別に時間的な推移の話ではない。また皮のベルトは最初から効果がなかった、とその直前に書いてある。
69	16-17	彼は優秀な兵士 <b>であり</b> 、その政治的意見からすると奇妙なことだった。	彼は優秀な兵士だったが、これはその政治的意見からすると奇妙なことだった。	いまの訳だと何が奇妙だったか不明
98	3	ラッザーリはどれほど間違っていたことだろうか。	ラッザーリは見当違いもいところだった。	直訳すぎ。
100	5	そう断言するのは不可能だ。	はっきりしたことはわからない。	It's impossible to be sureを逐語訳。
104	13-14	十代後半には「赤い処女」というあだ名が彼女につけられた。	十代後半について「赤い処女」というあだ名がその後も続いた。	
105	6-8	そして議会と民主主義に対するムツリーニの軽蔑は、かれが～立候補することを妨げなかった。	そして議会と民主主義を軽蔑していたにもかかわらず、彼は～立候補した。	直訳すぎ。
116	8-9	……利己的な <b>オポチュニスト</b> の決断と見なしてきた。しかし、そこにはいったいどのような日和見主義的な理由があり得ただろうか？	……利己的な日和見判断と見なしてきた。しかし、そこにはいったいどのような日和見主義的な理由があり得ただろうか？	opportunist / opportunism をすぐ隣で全然別の訳語処理する理由がわからん。まったく同じものを指しているのに。
124	10-11	一貫性のないことや背教者、脱党者はどの党派でも見られる現象だ。 <b>歴史がいずれそのことを明らかにするだろう。</b>	一貫性欠如や背教者、脱党者がどっちなのかは、歴史が明日にも明らかにするだろう。	邦訳だと、自分たちの転向についての弁明になってしまう。ここは、おまえたちこそ背教者だ、と相手を糾弾する文なのに。
131	3	敗者に対して <b>勝ち誇るように</b> 祝ったのではない。	敗者に対しての勝利を祝ったのではない。	ムツリーニは、ここで自分は目先の勝ち負けで騒いだんじゃない、自分たちの革命の姿勢が明確になったから祝ったんだ、と言いたいのだ。
158	8-9	上品な服装の女性たちに対して「ブルジョワジーの雌豚」と罵ることさえ、 <b>サルファッティによればあった。</b>	上品な服装の女性たちに対して「ブルジョワジーの雌豚」と罵ることさえあった、とサルファッティは書いている。	構文がひどい。この手のやつは無数にある。
166	3	自分ではなくダナンツィオであることをムツリーニは <b>苦しいけれども</b> 十分に承知していた。	自分ではなくダナンツィオであることを、ムツリーニは苦々しく思いつつも十分に承知していた。	「苦しいけれども」というのが変。
178	12	これは終わるべき企てだった。	長続きするわけがなかった。	直訳すぎで意味不明。
181	9	ファシズムによる救済も信じて <b>いなかったため</b> 、ムツリーニは <b>神に許されたかもしれない。</b>	ファシズムによる救済も信じていないのは、無理もないことかもしれない。	might be forgiven for … という慣用語を知らないためのまがいがい。

182	2-6	ヴァティカン是世界中に散らばる四億人の信徒を代表し、この巨大な力をもたらした勢力拡大には賢明な力が用いられたはずである。……政治的な問題は政治的な問題である。だれであれ……宗教戦争を引き起こすことを望まないとするれば、この精神的権威に……	ヴァティカン是世界中に散らばる四億人の信徒を代表しているのだから、この巨大な勢力を自らの勢力拡大に利用するのが賢明な政策というものだ。……それでも政治は政治だ。だれであれ……宗教戦争を引き起こすつもりでもない限り、この精神的権威に……	まったくの誤訳
184	4	これが危機をさらに拡大した。	これで危機は弱まった。	diffuseは分散して薄まったという意味。正反対の意味にしている。
198	5-6	左派が可能な場所であればこうむった被害に応酬したため	左派が機会さえあれば仕返しをしたため	
208	4-5	ドイツの経営評議会やロシアの工場評議会はどのようなものになったか？ いまではそれは別種の民主主義、政治的民主主義であって、まさに終焉を迎えようとしており	ドイツの経営評議会やロシアの工場評議会はどうか？ (それらに続いて)こんどは別の民主主義、つまり政治的民主主義こそが終焉を迎えようとしており	ドイツやロシアの民主的な試みは破綻したから、こんどはイタリアの民主主義も破綻する、と言いたいのだ。まったく意味が読めていない。
217	12-13	いまやそれは日にちの問題ではなく、おそらく時間の問題だ	いまやそれは数日中どころか、もの数時間以内に起こるだろう	a matter of… を直訳
222	16-17	国王とムッソリーニは、それぞれ最終的には互いを考慮しあっていた	国王とムッソリーニだけが、最終的には重要性を持つ二人なのだった	
223	12	君主制の立憲的側面は、過去十年にわたって～	君主制の立憲的側面である議会は、過去十年にわたって～	脱落。これがないと意味不明
225	15-16	プロレタリアートは現在の事態にかかわることはできない。今日可能なことは、さまざまな出来事がもたらす災いを待つことだけだ	プロレタリアートは現在の事態に参加できない。今日は事態の推移を見守るしかない	
231	1	ムッソリーニは権力を握ってはいなかった。権力を掌握したと考えるのは、ファシストの歴史の見方である。	ムッソリーニは権力を奪い取ったのではない。奪取したというのはファシスト史観だ。	権力はすでに握っている。ただ、それを無理矢理奪ったのではない、と言いたいのだ。
233	16-17	軍隊の一部を巻き込み、自ら行動を起こす。	軍隊の一部を巻き込み、いずれ軍に支配されることになる。	
234	6	ムッソリーニが権力を握って正確に何をしようとしているのか、彼以外の誰にもはっきりわからなかった。	ムッソリーニが権力を握ってずばり何をしようとしているのか、誰にもはっきりわからなかったし、彼自身がそれを一番わかっていなかった。	
250	17-18	彼は革命の道と議会の道を同時に進むことを追求していた。それは実力によるか、同意によるかということだった。	彼は革命の道と議会の道を同時に進むことを追求していた。それぞれ力による道と、同意による道だ。	そういう二者択一を採用しなかった、というのがこのポイントなのに。
254	10-11	しかし、非妥協派と修正主義派の差異がつねに根本的なディレンマとなった。	しかし、非妥協派と修正主義派の差異は、つねに根底では同じディレンマをめぐるものだった。	
255	15-16	彼(ムッソリーニ)は改宗した革命家として宗教を実践することへの回帰の模範を示した。	宗教的实践への回帰の模範を示したのは、改宗した革命家だったのだ。	
258	7-8	僥倖ではあっても、精力的な植民地政策を追求してきた。	精力的に利益の大きい植民政策を追求してきた。	なんで植民地政策が僥倖になるの？
260	17	ロシアの社会主義政権の合法性を最初に認めた国となった。	ロシアの社会主義政権を最初に正式承認した国となった。	合法性って……
264	12	ムッソリーニはマキャヴェッリの『君主論』の序文のテーマに立ち戻る。	ムッソリーニはマキャヴェッリの『君主論』の序文で、同じテーマに立ち戻る。	
	17	マキャヴェッリによれば、人間は悲しむべき存在で	マキャヴェッリによれば、人間は性悪な存在で	
265-266		しかし、人民が力で強制されていると思わないようなやり方で、したがわせるほうが正しい。	したがって、彼ら(人民)がもはや信じなくなったとき、力で信じさせることができるような手配しておくべきなのだ。	
256	4-5	ムッソリーニの政治的信念を理解するには～マキャヴェッリに関する彼の論文より以前にさかのぼる必要はない。	ムッソリーニの政治的信念を理解するには～マキャヴェッリに関する彼の論文を見るだけでよい。	look no further than の直訳。
274	12-13	このようにして多くの人は《自分を哀れむ》こと、すなわち《ひとりで苦しむ》ことから免れている	そのおかげで多くの人は《私(ムッソリーニ)を哀れむ》こと、すなわち《私(ムッソリーニと共に)苦しむ》ことから免れている	ここは、ムッソリーニが晩年に、自分が友達を作らなかったことを回想して、それが結果的によかったと述べ、その理由を語っているところ。邦訳だと意味不明。

274	15	弟のアルナルドだけが真の友人で、 たんに気に入っただれかとは正反対 の存在だった。	弟のアルナルドだけが、単に気に入 ったというだけでない真の友人 だった。	as opposed to という表現を知ら ずに直訳。
	最終行	彼女にとって彼の性的な魅力は衰えて しまっていた(彼女は人を振り向か せる魅力を依然として保持してい た)。	彼女に対してムッソリーニが感じる 性的魅力は衰えてしまっていた一 もともと彼女は、人を振り向かせる ほどの美女ではなかった。	まるっきり正反対に訳している が、文脈から判断すればわかり そうなもの。
275	5	彼女は気違いじみた嫉妬で彼を非難 した。	彼女は気違いじみたほど嫉妬深いと いって彼を非難した。	上に同じ
	8-9	ムッソリーニは、いまではもつとも重要 なトロフィーだったが、次第にその重 要性は小さくなりつつあった。	ムッソリーニは、いまではもつとも重 要なトロフィーだったが、ますます彼 女のものではなくなりつつあった。	上に同じ
280	12-13	イギリスのわれわれがムッソリーニ氏 を信頼しているのだから、イタリア人 もそうすべきだ	イギリスのわれわれはムッソリーニ 氏を信頼しており、イタリア人も同様 だ	
283	4-5	ムッソリーニ議員はすべての政治的 な幸運の持ち主だ。	ムッソリーニ議員は政治的にとこと ん運がいい。	all the luck の直訳誤訳
289	8-9	好きなようにイタリアが耐えがたい専 制の下で苦しんでいると描いてもいい だろう。	イタリアが耐えがたい専制の下で苦 しんでいると描いているが、それは まったくの我田引水だ。	
290	9	第3インターナショナルと呼ばれる新し い教会の興味深い試み	第3インターナショナルと呼ばれる新し い教会の奇矯な試み	curious はもつと冷笑的な意味 合い。
	14-15	マテオッティ暗殺がファシズムに反対 する理由となるのは、聖トーマス・ベ ケット暗殺が反封建主義の根拠にな るとそう違いません	聖トーマス・ベケット暗殺が反封建主 義の根拠にならないのと同じように、 マテオッティ暗殺もファシズムに反対 する理由にはなりません。	反語表現なので、どっちもそう いう議論は成り立たない、とい うこと。邦訳は正反対に訳して いる。
291	3	さらに激怒したアドラーは	それでも怒りのおさまらないアドラ ーは	
295	11-12	困難だった、とモネッリは認めている。 彼はまさに証人である。	困難だった、とそれを目撃したモネッ リは認めている。	
298	4	生命と歴史の諸力のなかに人間の意 思と呼ばれる力も加えねばならない	生命と歴史の諸力の間人間の意 思と呼ばれる力があることも認めね ばならない	
359	4	サルファッティは自分の意志でカトリ ックに改宗した。それは	サルファッティは何とも都合なこと にカトリックに改宗した。都合だと いうのは、	
386	16-17	もしくは邪悪でなくても、洗脳された ために理解し欲求することができな くなったのである。	もしくは邪悪でないなら、洗脳され てしまったわけで、つまりはあまりま ともではないということになる。	邪悪なのか、おめおめ洗脳さ れてしまうくらいバカなのか、と いうことね。
388	1-2	ラジオ聴衆者たちは、われわれが行 うニュースの操作を通して、はっきり と見ることが出来る。情報操作とい う批判は誇張が過ぎるのだ	ラジオ聴衆者たちは、われわれが行 うニュースの操作をはっきりと見抜 いている。その操作があまりに露骨 だからだ	see through が見破るという意 味なのを知らない
389	1	他の多くの学者たちも、それがきわめ て説得的である点で一致している。	他の多くの学者たちも、それがきわ めて説得的だと合意している。	ごくふつうの文なのになぜこん な変なことにな？ ちなみに文中 の「それ」というのは、ファシ ズムが再生的 (palingenetic) だ という意味不明の主張のこと。
389	3	だが当惑させるような言葉を使ってい るからといって、それが確かであると 断言できる者がいるだろうか？	だがこんな当惑するほど大仰な言葉 を使われてしまうと、はっきり言える 人などいるわけがない。	大げさなことばを使っているか ら確かというのではなく、それ が大仰であるがゆえに(そのこ とばの意味がはっきりわからない ので)確かとは言えない、と いうこと。大げさなことばとい うのは、上に出た palingenetic という一般には絶対に使われな いことば。ほとんどの人はその 意味すら知らない。

下巻

page	line	邦訳	修正	コメント
9	9	彼女になんらかの教育の仕上げをほ どこした	彼女にある面では教育の仕上げを ほどこした。	
13	6	不幸なことに	残念ながら	unfortunately の直訳。
13	15	声高な独善とともに	きわめて尊大な態度で	
13	16	賭け札がテーブルに置かれると	ふたを開けてみると	

16	8	アンハラ族	アムハラ族	Amharic のmをnとまちがえたものだが、イタリア現代史の専門家が、その侵略植民地たるエチオピアの主要民族を知らないの??
16	10	ネグスはこの国を帝国と呼び、それゆえにこそ、自らを皇帝と称した。	ネグスはこの国を帝国と呼んだ。まさに帝国だったからだ。そして自らを皇帝と称した。	
18	10	奴隷取引の横行	奴隷狩りのための襲撃横行	
18	15-16	そうであったとしても、エチオピアをめぐる正面衝突を避けるために必要なことは、国際連盟でのイギリスとフランスの体面を保つための舞台裏での取引だった。	とはいえエチオピアをめぐる正面衝突を避けるためには、国際連盟でのイギリスとフランスの体面を保つための舞台裏取引ですんだ。	
41	4-6	それは彼らにとっては正しい政治路線ではあったが、イギリスの労働党と世論にとってはそうではなく、そして世論が誤って保守党のチャンピオンと考えていたイーデンのような公人にとってもそうではなかった。	だが、かれらのものこそが正しい政策だった—英労働党の政策でもなく、イギリス大衆の政策でもなく、そして世論代表だと人々が誤解していたイーデンのような人物の政策でもない。	まったくの誤訳。
42	3-4	正しかったのはイーデンや世論、あるいは労働党ではなく、リアリストたち—宥和派—だった。前者が短期間のうちに状況を台無しにしてしまったのだが。	正しかったのはイーデンや世論、あるいは労働党ではなく、リアリストたち—宥和派—だった。そのリアリストたちも短期間のうちに状況を台無しにしてしまったのだが。	
52	18	そして文明的という伝説がエチオピアでもたしかに真実ではなかった。	そしてイタリアが文明的にふるまったという伝説は、エチオピアでも絶対に真実ではなかった。	
60	12-13	ファシズムが「インターナショナル」なものになるには、「ナショナル」であることがファシズムのあまりにも重要な部分であった。	ファシズムは「ナショナル」の部分が大きすぎて、「インターナショナル」にはなれなかった	
122	3-4	それは「本物のダイナマイト」だったと彼は日記に書いた(そのときもそれ以前も、ナチスとの終わることのない話し合いで彼はさらに驚かされるのだが)。	それは「本物のダイナマイト」だったと彼は日記に書いた(まるでそれ以前や以後に、ナチスとの果てしない話し合いをしていたのに、ここで一層驚いたとでも言わんばかりだ)。	ここはチャーノが実際には驚いてなんかいない、と指摘したいところ。全然反対。
124	12-13	何よりもチャーノが鋼鉄同盟を阻止しようとしたと思わせた有名な彼の日記をもとにして、一つの集団が生まれた。	有名なチャーノの日記をもとにして一大産業が生まれており、それは—他にもあるが—チャーノが鋼鉄同盟を阻止しようとしたという説を人々に信じ込ませようとしている。	
147	4	わたしがイタリア人たちを走らせるのを見ておきなさい。	今後、わたしはイタリア人を行進(進軍)させるから、見ているがいい	
170	17	おごり高ぶったギリシャ軍は、トルコ軍のように戦い、すぐにドウーチェをバカにするようになって	楽な相手だとみたギリシャ軍たちは勇猛に闘い、すぐにドウーチェを撃破して	
173	3	たったひとりの人間がきみたちを連れて行くのはここなのだ!	たったひとりの人間がきみたちをこんな目にあわせたのだ!	where というのは特定の場所ではなく、状態を指している。
204	19	ムッソリーニはヒトラーの手から数多くのユダヤ人を救っている。	ムッソリーニはヒトラーの手からユダヤ人を救うためにあらゆる手を使った。	
251	11	大評議会が後継者として国王を指名すれば	大評議会が後継者としてだれかを指名すれば	
254	10	グランディはムッソリーニに嘘をついていた。あるいはムッソリーニが嘘をついていたのか?	グランディはムッソリーニに嘘をついていたのだ。だが、本当にそうなのだろうか?	Or did he? 直前の文を疑って見せて、他の可能性を考えようとしている文。
258	3-5	わたしの、そしてわれわれの決意は、それが純粋なものとなるかで表れ、われわれ地震を試練にさらすという事実によってその方向性が指し示される。それは他に選択肢のない方向であって、諦めあるいは犠牲のなかにか出口はなさそうである。	わたしの、そしてわれわれの決意の中身は、それを実施する中で純粋明瞭となり、事実に基づくものとなるだろう。なぜならその結果としてわれわれは、自分たち自身の身を賭けることになるのだから。それは他に逃げ道のないゲームであり、諦めるか己を犠牲にするかという出口しかない。	

いい加減つかれたのでここまでしておくが、意味はなんとかとれても訳文としてあまりにひどいものが無数にあり、ホントはこの10倍は指摘したいところ。